

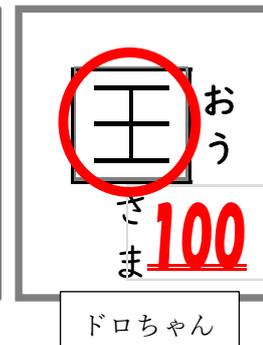
メダちゃんの話

ドロちゃんって、私のとなりの席の子よ。私とドロちゃんのテスト、くらべてみて。

私とドロちゃんの答、まったく同じ。なのに、私のは△で75点、ドロちゃんは○で100点。ねえ、変でしょ。先生がまちがえたのよ、きっと。私、先生に言いに行くことにしたの。



メダちゃん



ドロちゃん

メダ「先生、これ、この点数って、まちがっていませんか。」

先生「まちがっていませんよ。」

めだ「でも、私のはきびしく75点にしているのに、ドロちゃんのは100点で、なんだか不公平だなと思ったのです。」

先生「きびしく○つけするのは、メダちゃんがそうしてほしいって言ったからですよ。」

メダ「えっ、それって、どういうことですか。」

先生はゆっくりとした口調（くちょう）で、説明をしてくれました。

この《ジャンケン先生おもしろチャレンジ教室》の漢字テストには、三つの種類がある。

- A ステージ 漢字がにが手で自信がない人のためのテストで、「だいたい正しく書けると○になる」という《自信ステージ》。
- B ステージ 漢字はにが手ではないが、漢字練習が好きではないという人のためのテストで、「正しく書けると○になる」という《上達ステージ》。
- C ステージ 漢字が得意な人のためのテストで、「正しくきれいに書けないと○にならない」という《超難関^{ちやうなんかん}ステージ》。

ステージは子どもたちが自分で選ぶ。最初はAステージを選び、全問合格になったら、B、Cステージへと進むやり方。Aステージをとばし、初めからBステージを選ぶこともできる。もちろん、Cの超難関ステージに最初からチャレンジしてもいい。

先生「ドロちゃんはBステージを、メダちゃんは初めからCステージを選んだのですよ。」

メダ「私、Cステージなのをすっかり忘れていました。先生、ステージのちがいをもう少しわしく教えてもらえますか。」

メダちゃんのないしょ話「次は超難関ステージのクリアーの秘密がわかるかも。」 つづく